

浜岡原子力発電所 周辺環境放射能調査結果

第 183 号

調査期間 令和元年 7 月～令和元年 9 月

令和元年 11 月

静岡県環境放射能測定技術会

はじめに

静岡県においては、浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定に基づき、静岡県環境放射能測定技術会が「浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画」を策定し、昭和47年度から浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査を実施している。

この調査結果は、令和元年度第2四半期に各測定機関が実施した測定結果について、静岡県環境放射能測定技術会が検討、評価した結果を取りまとめたものである。

目 次

I	調査結果のまとめ	1
II	調査概要	2
III	調査結果	
1	空間放射線量	4
(1)	線量率	4
ア	短期評価 (1 時間平均値)	4
イ	長期評価 (3 ヶ月間平均値)	5
(2)	積算線量	6
2	環境試料中の放射能	7
(1)	全アルファ・全ベータ放射能	7
(2)	核種分析	8
ア	機器分析 (ガンマ線放出核種)	8
イ	放射化学分析 (ストロンチウム-90)	11
ウ	トリチウム分析	12
	参考資料	13

I 調査結果のまとめ

令和元年度第2四半期（令和元年7月～9月）の調査では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められなかった。

1 空間放射線量の測定結果

(1) 線量率 (14 地点)

ア 短期評価 (1 時間平均値)

全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

イ 長期評価 (3 ヶ月間平均値)

1 地点で平常の変動幅の下限を下回ったが、それ以外の地点は平常の変動幅の範囲内であった。

(2) 積算線量 (57 地点)

全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

2 環境試料中の放射能の測定結果

(1) 浮遊塵の全アルファ・全ベータ放射能 (5 地点)

全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

(2) 核種分析

ア セシウム-134、セシウム-137 の両方又はどちらか一方

① 陸上試料 (23 地点)

2 地点で平常の変動幅の上限を超過した。

② 海洋試料 (27 地点)

全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

イ ストロンチウム-90 (2 地点)

全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

ウ トリチウム

① 大気中水分 (4 地点)

全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

② 陸水及び海水 (6 地点)

全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

3 評価

一部の地点において人工放射性核種を検出し、平常の変動幅^{※1}の上限を超過したが、浜岡原子力発電所内モニタの測定結果や測定系等の異常の有無などから総合的に判断し、浜岡原子力発電所の影響ではなく、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故（以下「東電事故」という。）や過去に行われた核爆発実験等による影響と評価した。

4 参考

東電事故等により放出された人工放射性核種の影響について、第1四半期及び第2四半期の測定結果から令和元年度の外部被ばく及び内部被ばくによる実効線量を推定した。その結果、公衆の年線量限度 1mSv よりも十分低く、健康への影響は心配ないレベルであった。^{※2}

※1 東電事故前の過去 10 年間（測定期間が 10 年に満たない場合にあっては、測定開始から東電事故が発生するまでの間）の最小値と最大値の範囲としている。詳細については、平成 30 年度環境放射能調査結果の評価方法に記載している。

※2 実効線量の推定結果は参考資料Ⅱに示した。

II 調査概要

1 目的

浜岡原子力発電所周辺の環境放射線及び環境放射能を調査する目的は、環境における原子力発電所に起因する放射性物質又は放射線による周辺住民等の線量が、年線量限度の 1mSv を十分に下回っていることを確認するとともに、万が一、原子力災害対策特別措置法に基づく異常事態等が発生した場合であっても、速やかに対応できるようモニタリング体制を整備しておくことにある。この目的は、具体的に次の4項目に要約される。

- (1) 周辺住民等の線量を推定し評価すること。
- (2) 環境における放射性物質の蓄積状況を把握すること。
- (3) 原子力発電所からの予期しない放射性物質の放出を早期に検出し、周辺環境への影響を評価すること。
- (4) 異常事態等が発生した場合、平常時モニタリングを強化するとともに、緊急時モニタリングを迅速に開始できるよう体制を整備すること。

2 測定機関

- (1) 静岡県環境放射線監視センター
- (2) 中部電力株式会社浜岡原子力発電所

3 調査期間

令和元年7月～令和元年9月

4 調査内容

(1) 調査項目

ア 空間放射線量の測定

- ① 空間ガンマ線測定装置による線量率
- ② 蛍光ガラス線量計による積算線量

イ 環境試料中の放射能測定

- ① 全アルファ・全ベータ放射能測定
- ② 核種分析

(2) 調査の実施状況

調査対象ごとの調査の実施状況を表1～3に示す。

5 測定法

静岡県環境放射能測定技術会が定めた「環境放射能測定法」(平成30年2月改訂)による。

6 評価方法

静岡県環境放射能測定技術会が定めた「令和元年度環境放射能調査結果の評価方法(令和元年10月)」による。

表1 空間放射線量

調査対象	地点数	調査期間
線量率	14	令和元年7月～9月
積算線量	57	

表2 環境試料中の放射能（陸上試料）

調査対象	全アルファ・全ベータ		核種分析						
	放射能測定		ガンマ線放出核種		ストロンチウム-90		トリチウム		
	地点数	調査時期	地点数	調査時期	地点数	調査時期	地点数	調査時期	
浮遊塵 ^{1), 2)}	5	7～9月 (連続測定)	5	7, 8, 9月	—	—	—	—	
大気中水分 ²⁾	—	—	—	—	—	—	4	7, 8, 9月	
降下物 ²⁾	—	—	1	7, 8, 9月	—	—	—	—	
土壌	—	—	3	7月	—	—	—	—	
陸水	上水	—	—	2	9月	—	—	1	9月
	井水	—	—	1	9月	—	—	—	—
	河川水	—	—	3	9月	—	—	—	—
農畜産物	すいか	—	—	2	7月	—	—	—	—
	かんしょ	—	—	1	9月	—	—	—	—
	原乳	—	—	2	7月	1	7月	—	—
指標生物	松葉	—	—	3	9月	—	—	—	—

注1) 浮遊塵の全アルファ・全ベータ放射能測定は、集塵中及び集塵終了6時間後に測定を行った。

注2) 浮遊塵（核種分析）、大気中水分及び降下物は1カ月ごとに採取した。

表3 環境試料中の放射能（海洋試料）

調査対象	核種分析						
	ガンマ線放出核種		ストロンチウム-90		トリチウム		
	地点数	調査時期	地点数	調査時期	地点数	調査時期	
海水	10	8月	—	—	5	8月	
海底土	10	8月	—	—	—	—	
海産生物	しらす	1	8月	1	8月	—	—
	あじ ¹⁾	1	7月	—	—	—	—
	むらさきいがい ²⁾	未採取	—	—	—	—	—
	かき	1	7月	—	—	—	—
特定試料	海岸砂	4	7月	—	—	—	—

注1) 4月に採取予定だったが、漁の都合により7月の採取となった。

注2) 7月に採取予定だったが、不漁のため未採取となった。

Ⅲ 調査結果

1 空間放射線量

空間ガンマ線測定装置による線量率及び蛍光ガラス線量計による積算線量の測定結果を評価した。

(1) 線量率

ア 短期評価 (1 時間平均値)

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺に設置した 14 箇所のモニタリングステーションにおける測定結果を表 4 に示す。

測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表 4 線量率 (短期評価) の測定結果

単位：nGy/h

測定地点名	測定値 ¹⁾		平常の変動幅	震災後の変動幅
	最小値	最大値		
御前崎市 白砂	37	60	36～95	36～89
中町	54	74	47～94	52～103 ²⁾
桜ヶ池公民館	45	67	40～97	45～104 ²⁾
上ノ原	44	66	40～98	44～102 ²⁾
佐倉三区	37	58	37～91	37～96 ²⁾
平場	36	57	36～96	36～88
白羽小学校	40	61	40～94	43～92
牧之原市 地頭方小学校	40	57	37～90	41～100 ²⁾
御前崎市 旧監視センター	40	59	39～95	39～86
草笛	39	57	37～91 ³⁾	40～104(96) ⁴⁾
新神子	38	59	36～105	36～94
浜岡北小学校	40	65	40～94	40～99 ²⁾
掛川市 大東支所	38	60	38～93	39～94 ²⁾
菊川市 水道事務所	45	63	44～95	44～106 ²⁾

注 1) 下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

注 2) 上限値は東電事故の影響ではなく、自然変動によるものと評価している。(調査結果書第 164 号)

注 3) 令和元年 6 月に行った測定装置の修繕 (検出器の取替え) により、測定値に有意な変化が生じたため、平常の変動幅を見直し、令和元年 7 月から適用している。(調査結果書第 182 号)

注 4) () 内は、X 線を用いた非破壊検査が実施された時間帯 (平成 27 年 2 月 18 日 11 時～17 時、2 月 19 日 9 時～12 時、3 月 23 日 13 時～18 時、3 月 24 日 8 時～18 時) の値を除いた場合の測定値である。

イ 長期評価（3ヶ月間平均値）

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺に設置した14箇所のモニタリングステーションにおける測定結果を表5に示す。

測定の結果、大東支所で平常の変動幅の下限を下回ったが、それ以外の地点は平常の変動幅の範囲内であった。

【評価結果】

大東支所で平常の変動幅の下限を下回った原因は、周辺環境の変化や測定系等の異常は認められないことから、自然変動（自然放射性核種の変動）によるものと考えられる。

表5 線量率（長期評価）の測定結果

単位：nGy/h

地 点 名	測 定 値 ¹⁾					令和元年度 平常の変動幅 (震災後の 変動幅)
	平成30年度			令和元年度		
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	
御前崎市 白砂	39	40	40	40	39	39～43 (40～46)
中町	56	57	57	57	57	51～57 (55～57)
桜ヶ池公民館	47	48	48	48	47	42～49 (47～50)
上ノ原	46	47	47	47	46	42～48 (46～49)
佐倉三区	39	40	40	40	39	39～41 (39～42)
平場	38	39	39	38	38	38～44 (38～45)
白羽小学校	43	43	43	43	43	43～48 (46～49)
牧之原市 地頭方小学校	43	43	43	43	42	39～44 (43～46)
御前崎市 旧監視センター	41	42	42	42	41	41～50 (41～48)
草笛	43	44	44	43	40	39～49 ²⁾ (41～50)
新神子	40	41	41	41	40	40～50 (40～49)
浜岡北小学校	43	43	44	43	43	43～49 (43～46)
掛川市 大東支所	41	42	42	41	<u>40</u>	41～47 (41～47)
菊川市 水道事務所	47	48	48	47	47	47～53 (47～51)

注1) 下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

注2) 令和元年6月に行った測定装置の修繕（検出器の取替え）により、測定値に有意な変化が生じたため、平常の変動幅を見直し、令和元年7月から適用している。（調査結果書第182号）

(2) 積算線量

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺 57 地点における積算線量の測定結果を表 6 に示す。
測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表 6 積算線量の測定結果

単位:mGy

ポイント番号	測定地点	測定値 ²⁾ (90日換算値)	平常の変動幅	震災後の変動幅	ポイント番号	測定地点	測定値 ²⁾ (90日換算値)	平常の変動幅	震災後の変動幅
	地点名 ¹⁾					地点名 ¹⁾			
1	御前崎市 西上ノ原	0.13	0.12~0.14	0.13~0.14	45	御前崎市 平 場	0.14	0.12~0.15	0.14~0.15
2	上ノ原岩根	0.15	0.14~0.16	0.14~0.16	46	海 山*	0.15 0.15	0.13~0.15	0.14~0.15
3	玄 保	0.14	0.13~0.14	0.13~0.15	47	本町公民館*	0.14 0.14	0.12~0.15	0.13~0.15
4	洗 井	0.13	0.12~0.13	0.13~0.14	48	有ヶ谷	0.15	0.13~0.15	0.14~0.15
17	上比木	0.15	0.14~0.16	0.15~0.16	49	朝比奈原公民館*	0.14 0.14	0.12~0.14	0.13~0.15
18	三 間	0.14	0.13~0.15	0.14~0.15	5	借 宿*	0.14 0.14	0.13~0.14	0.13~0.15
19	名 波*	0.15 0.15	0.14~0.16	0.15~0.16	6	中 西	0.14	0.13~0.14	0.13~0.15
21	宮 内	0.15	0.14~0.15	0.14~0.16	7	白羽小学	0.15	0.13~0.15	0.13~0.15
22	中 田	0.16	0.15~0.17	0.15~0.17	8	薄原前*	0.14 0.14	0.13~0.14	0.14~0.15
23	旧朝比奈小学校*	0.15 0.15	0.14~0.15	0.14~0.16	9	広 沢	0.13	0.12~0.13	0.12~0.14
24	下朝比奈	0.15	0.13~0.15	0.13~0.15	10	芹 沢	0.14	0.13~0.14	0.13~0.15
25	木ヶ谷	0.14	0.13~0.15	0.13~0.15	11	西 山*	0.15 0.15	0.13~0.15	0.14~0.16
26	蒲 池	0.14	0.13~0.14	0.13~0.14	12	遠 代	0.13	0.12~0.14	0.12~0.14
27	塩原新田	0.15	0.13~0.15	0.14~0.16	13	牧之原市 堀野新田*	0.13 0.13	0.12~0.13	0.12~0.14
28	合戸東前	0.14	0.14~0.15	0.14~0.15	14	地頭方天白	0.13	0.12~0.14	0.12~0.14
29	七ツ山	0.14	0.13~0.14	0.13~0.15	15	地頭方小学校*	0.14 0.14	0.13~0.15	0.14~0.16
30	落 合	0.14	0.13~0.15	0.13~0.16	16	旧地頭方中学校	0.15	0.14~0.15	0.14~0.16
31	八千代	0.14	0.13~0.14	0.13~0.15	20	笠 名	0.15	0.14~0.16	0.14~0.16
32	し尿処理場	0.14	0.13~0.15	0.13~0.15	50	菅山保育園	0.15	0.13~0.15	0.13~0.16
33	西佐倉	0.14	0.13~0.15	0.14~0.15	51	鬼女新田公民館*	0.14 0.14	0.12~0.14	0.13~0.15
34	桜ヶ池*	0.14 0.14	0.12~0.14	0.13~0.15	52	相良庁舎*	0.15 0.14	0.13~0.15	0.13~0.15
35	中 町*	0.16 0.16	0.14~0.16	0.14~0.17	53	掛川市 千浜小学校*	0.15 0.15	0.14~0.15	0.15~0.16
36	桜ヶ池公民館	0.15	0.13~0.15	0.14~0.15	54	大東支所	0.15	0.13~0.15	0.14~0.15
58	第6分団*	0.15 0.15	0.14~0.15	0.14~0.16	55	菊川市 南山駐在所*	0.14 0.14	0.13~0.14	0.13~0.15
38	上ノ原	0.13	0.12~0.14	0.12~0.14	56	水道事務所	0.14	0.13~0.15	0.14~0.15
39	上ノ原平場前	0.14	0.13~0.15	0.13~0.15	57	東小学校	0.14	0.13~0.15	0.14~0.15
40	合戸西前	0.13	0.12~0.15	0.13~0.14					
41	合戸池田	0.14	0.13~0.15	0.14~0.15					
42	門屋石田*	0.15 0.15	0.13~0.15	0.15~0.16					
43	中 尾	0.17	0.15~0.18	0.16~0.18					
44	白 砂	0.13	0.12~0.18	0.13~0.14					

注1) 「*」が付記された地点は、県及び中電の両機関が測定を実施し、それ以外の地点は中電が測定を実施した。

注2) 県及び中電の両機関が測定した地点は、左欄に県、右欄に中電の測定値を記載した。

2 環境試料中の放射能

全アルファ・全ベータ放射能及び核種分析の測定結果を評価した。

なお、測定結果に記載の「検出されず」と「検出限界未満」については、解説資料において詳細を説明している。

(1) 全アルファ・全ベータ放射能

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺の14箇所のモニタリングステーションのうち、5箇所に設置したダストモニタによる測定結果を表7に示す。

測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表7 全アルファ・全ベータ放射能（浮遊塵）の測定結果

① 集塵中の全アルファ・全ベータ放射能比

単位：－

地点名	測定値		平常の変動幅	震災後の変動幅
	最小値	最大値		
御前崎市 白砂	* ¹⁾	3.8	*～9.2	*～17
中町	*	3.4	*～9.1	*～7.5
平場	*	4.2	*～7.3	*～21
白羽小学校	*	3.2	*～5.6	*～6.8
牧之原市 地頭方小学校	*	4.1	*～7.2	*～7.3

注1) 「*」は、「LTD：検出限界未満」を示す。

② 集塵中の全ベータ放射能

単位：Bq/m³

地点名	測定値		平常の変動幅	震災後の変動幅
	最小値	最大値		
御前崎市 白砂	* ¹⁾	10	*～22	*～19
中町	*	9.9	*～20	*～12
平場	*	9.8	*～16	*～16
白羽小学校	*	9.6	*～16	*～7.9
牧之原市 地頭方小学校	*	7.4	*～18	*～8.7

注1) 「*」は、「LTD：検出限界未満」を示す。

③ 集塵終了6時間後の全ベータ放射能

単位：Bq/m³

地点名	測定値 ¹⁾		平常の変動幅	震災後の変動幅
	最小値	最大値		
御前崎市 白砂	* ¹⁾	0.23	*～0.40	*～5.6
中町	*	0.21	*～0.37	*～3.9
平場	*	0.16	*～0.28	*～0.77
白羽小学校	*	0.11	*～0.15	*～3.9
牧之原市 地頭方小学校	*	0.19	*～0.27	*～4.2

注1) 「*」は、「LTD：検出限界未満」を示す。

(2) 核種分析

ア 機器分析（ガンマ線放出核種）

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺 50 地点について、機器分析による測定結果を表 8-1～8-2 に示す。

測定の結果、以下の試料でセシウム-134、セシウム-137 の両方又はどちらか一方が平常の変動幅の上限を超過した。

① 陸上試料 (2/23 地点)

土壌 (1/3 地点)、すいか (1/2 地点)

② 海洋試料 (0/27 地点)

該当試料なし。

【評価結果】

浜岡原子力発電所内モニタの測定結果や前処理、測定などに異常は認められないことから、平常の変動幅の上限を超過した原因は、セシウム-134 については東電事故の影響、セシウム-137 については過去の核爆発実験等の影響に東電事故の影響が加わったことによるものと考えられる。

表 8-1 機器分析 (ガンマ線放出核種) の測定結果

試料名	地点数	測定値 ¹⁾	平常の変動幅	震災後の変動幅	単位	
浮遊塵	5	¹³⁴ Cs : * ²⁾	*	* ~ 7.78	mBq/m ³	
		¹³⁷ Cs : *	*	* ~ 8.21		
		その他 ³⁾ : *	*	*		
降下物	1	¹³⁴ Cs : *	*	* ~ 617	Bq/m ²	
		¹³⁷ Cs : * ~ 0.064	* ~ 0.12	* ~ 611		
		その他 : *	*	*		
陸水 上水	2	¹³⁴ Cs : *	*	*	mBq/L	
		¹³⁷ Cs : *	*	*		
		その他 : *	*	*		
井水	1	¹³⁴ Cs : *	*	*		
		¹³⁷ Cs : *	*	*		
		その他 : *	*	*		
河川水	3	¹³⁴ Cs : *	*	* ~ 2.3		
		¹³⁷ Cs : *	*	* ~ 2.8		
		その他 : *	*	*		
土壌	3	¹³⁴ Cs : * ~ 0.87	*	* ~ 21.6	Bq/kg 乾土	
		¹³⁷ Cs : 3.4 ~ 11.4	1.7 ~ 10.0	3.3 ~ 28.4		
		その他 : *	*	*		
農畜産物 すいか	2	¹³⁴ Cs : *	*	* ~ 0.19	Bq/kg 生	
		¹³⁷ Cs : * ~ 0.016	* ~ 0.015	* ~ 0.190		
		その他 : *	*	*		
	かんしょ	1	¹³⁴ Cs : *	*		* ~ 0.13
			¹³⁷ Cs : 0.039 ~ 0.045	* ~ 0.092		0.039 ~ 0.241
			その他 : *	*		*
原乳	2	¹³⁴ Cs : *	*	* ~ 0.43		
		¹³⁷ Cs : *	* ~ 0.029	* ~ 0.45		
		¹³¹ I : *	*	* ~ 0.14		
		その他 : *	*	*	Bq/kg 生	
指標生物 松葉	3	¹³⁴ Cs : *	*	* ~ 41.1	Bq/kg 生	
		¹³⁷ Cs : 0.029 ~ 0.106	* ~ 0.22	0.056 ~ 44.3		
		¹³¹ I : *	*	*		
		その他 : *	*	*		

注 1) 下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

注 2) 「*」は「ND: 検出されず」を示す。

注 3) その他は、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137 及びカリウム-40 以外の対象核種で、詳細は環境放射能測定法に記載している。

表 8-2 機器分析（ガンマ線放出核種）の測定結果

試料名	地点数	測定値 ¹⁾	平常の変動幅	震災後の変動幅	単位	
海 水	10	¹³⁴ Cs : * ²⁾	*	*~4.5	mBq/L	
		¹³⁷ Cs : *~4.1	*~4.1	*~6.1		
		その他 ³⁾ : *	*	*		
海底土	9	¹³⁴ Cs : *	*	*~0.47	Bq/kg 乾土	
		¹³⁷ Cs : *~0.98	*~1.2	*~1.4		
		その他 : *	*	*		
海底土 ⁴⁾	1	¹³⁴ Cs : *	*	*~1.6	Bq/kg 乾土	
		¹³⁷ Cs : 2.0~2.1	*~2.7	1.3~3.1		
		その他 : *	*	*		
海産生物	しらす	1	¹³⁴ Cs : *	*	*~0.21	Bq/kg 生
			¹³⁷ Cs : *~0.032	*~0.071	*~0.21	
			その他 : *	*	*	
	あじ ⁵⁾	1	¹³⁴ Cs : *	*	*~0.21	
			¹³⁷ Cs : 0.14~0.18	0.10~0.23	0.11~0.39	
			その他 : *	*	*	
	むらさきい がい ⁶⁾	未採取	¹³⁴ Cs : —	*	*~0.35	
			¹³⁷ Cs : —	*	*~0.46	
			その他 : —	*	*	
	か き	1	¹³⁴ Cs : *	*	*~0.15	
			¹³⁷ Cs : *	*~0.034	*~0.15	
			その他 : *	*	*	
特定試料	海岸砂	4	¹³⁴ Cs : *	*	*	
			¹³⁷ Cs : *	*	*~0.94	
			その他 : *	*	*	

注1) 下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

注2) 「*」は「ND：検出されず」を示す。

注3) その他は、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137 及びカリウム-40 以外の対象核種で、詳細は環境放射能測定法に記載している。

注4) 採取場所は御前崎港（内海）であり、他の採取地点（外海）と環境が異なるため、平常の変動幅を区別して定めている。

注5) 4月に採取予定だったが、漁の都合により7月の採取となった。

注6) 7月に採取予定だったが、不漁のため未採取となった。

イ 放射化学分析（ストロンチウム-90）

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺 2 地点について、放射化学分析による測定結果を表 9 に示す。

測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表 9 放射化学分析（ストロンチウム-90）の測定結果 単位：Bq/kg 生

試料名		地点数	測定値	平常の変動幅	震災後の変動幅
農畜産物	原乳	1	0.014～0.020	*～0.022	*～0.018
海産生物	しらす	1	* ¹⁾	*	*

注1) 「*」は「ND:検出されず」を示す。

ウ トリチウム分析

① 大気中水分

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺 4 地点について、トリチウム分析による測定結果を表 1 0 に示す。

測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表 1 0 大気中水分トリチウムの測定結果 単位：捕集水は Bq/L、空気は Bq/m³

地 点 名	地点数	試料名	測 定 値	平常の変動幅	震災後の変動幅
浜岡原子力 発電所周辺	4	捕集水 ¹⁾	* ²⁾ ~0.66	*~2.1	*~1.4
		空 気 ³⁾	*~0.0097	*~0.017	*~0.019

注 1) 大気中の水分に含まれるトリチウムの測定結果である。

注 2) 「*」は「ND：検出されず」を示す。

注 3) 空気中トリチウム濃度は、捕集水中トリチウム濃度から求めたものである。

② 陸水及び海水

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺 6 地点の陸水及び海水について、トリチウム分析による測定結果を表 1 1 に示す。

測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表 1 1 トリチウムの測定結果 単位：Bq/L

試 料 名		地点数	測 定 値	平常の変動幅	震災後の変動幅
陸 水	上 水	1	0.44~0.53	* ¹⁾ ~0.91	*~0.82
海 水		5	*~0.59	*~0.88	*~0.81

注1) 「*」は「ND：検出されず」を示す。

参 考 資 料

I	測定データ資料	14
1	空間放射線量	14
(1)	線量率	14
(2)	モニタリングステーションの線量率(1ヶ月平均値)の推移	15
(3)	線量率と降雨量の時系列グラフ	17
(4)	積算線量	21
2	環境試料中の放射能	22
(1)	全アルファ・全ベータ放射能	22
(2)	核種分析	23
ア	機器分析(ガンマ線放出核種)	23
イ	放射化学分析(ストロンチウム-90)	29
ウ	トリチウム分析	30
	付表-1 測定器	
	付表-2 日本における環境試料中のカリウム-40	
II	東京電力(株)福島第一原子力発電所事故及び核爆発実験等の影響について	32
III	令和元年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画	35
IV	令和元年度環境放射能調査結果の評価方法	48
V	浜岡原子力発電所の運転状況等(中部電力株式会社)	63
VI	浜岡原子力発電所内モニタ測定結果(中部電力株式会社)	65

I 測定データ資料

1 空間放射線量

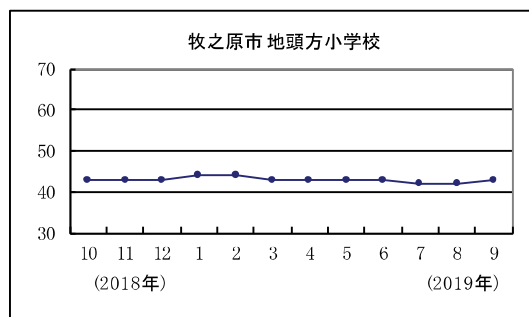
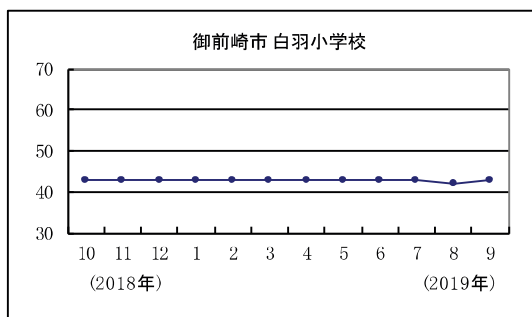
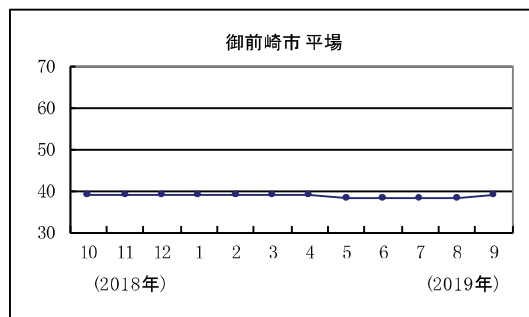
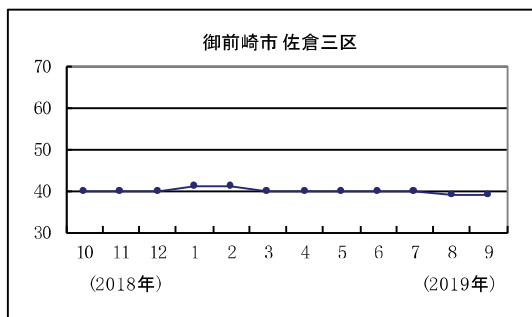
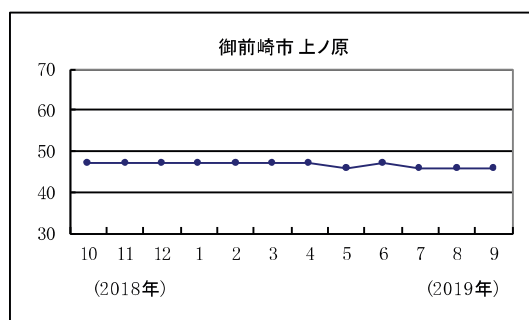
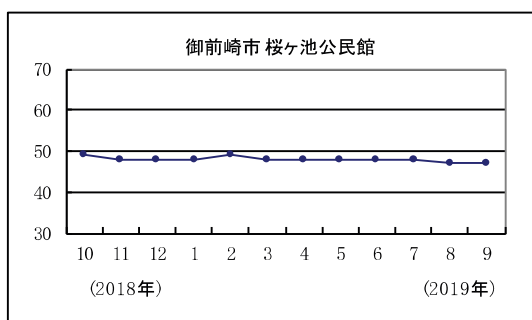
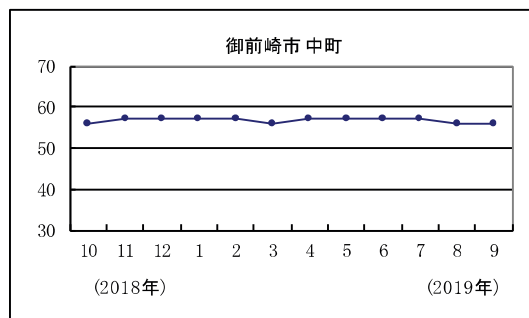
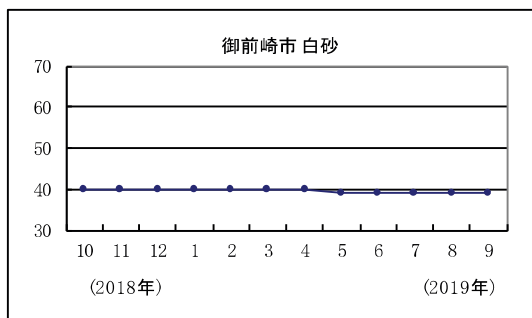
(1) 線量率

単位：nGy/h

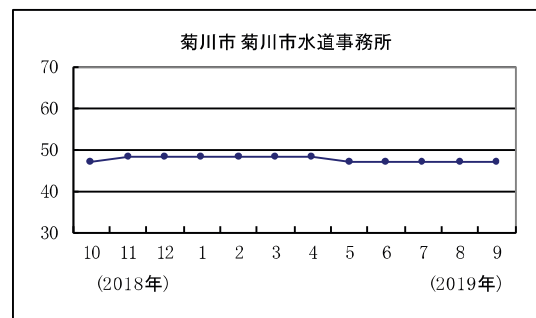
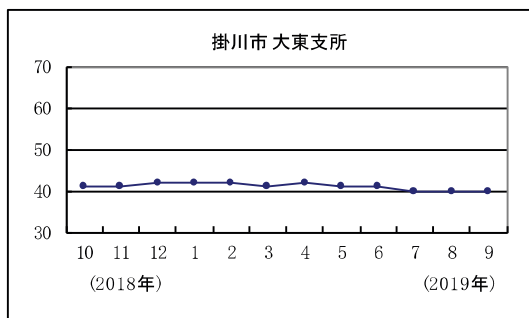
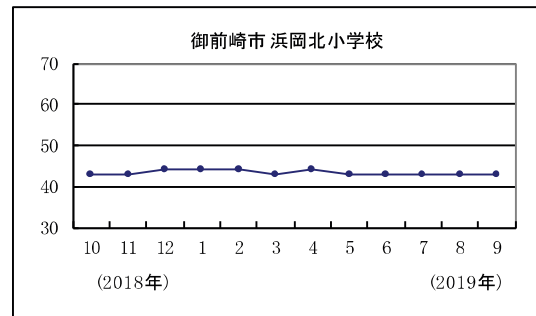
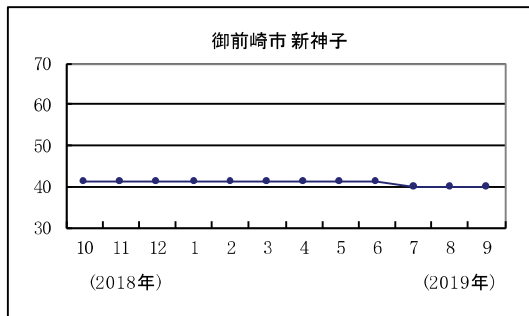
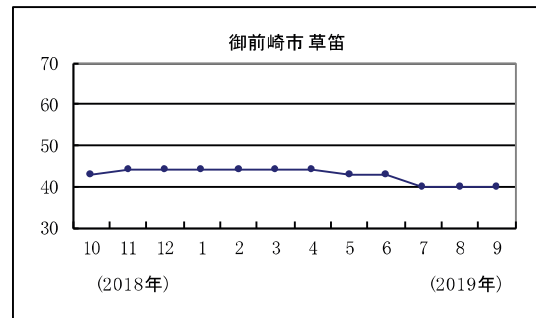
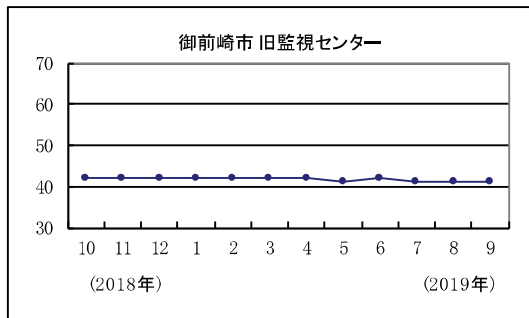
測定地点名	月	短期評価		長期評価
		最小値	最大値	3ヶ月平均値
御前崎市 白砂	7月	37	60	39
	8月	37	47	
	9月	38	42	
中町	7月	54	74	57
	8月	54	63	
	9月	54	59	
桜ヶ池公民館	7月	45	67	47
	8月	46	54	
	9月	46	50	
上ノ原	7月	44	66	46
	8月	44	53	
	9月	45	51	
佐倉三区	7月	37	58	39
	8月	38	47	
	9月	37	43	
平場	7月	36	57	38
	8月	37	46	
	9月	37	44	
白羽小学校	7月	40	61	43
	8月	40	49	
	9月	41	48	
牧之原市 地頭方小学校	7月	40	57	42
	8月	41	49	
	9月	41	45	
御前崎市 旧監視センター	7月	40	59	41
	8月	40	46	
	9月	40	43	
草笛	7月	39	57	40
	8月	39	47	
	9月	39	43	
新神子	7月	38	59	40
	8月	38	47	
	9月	38	44	
浜岡北小学校	7月	40	65	43
	8月	41	49	
	9月	41	47	
掛川市 大東支所	7月	38	60	40
	8月	39	46	
	9月	39	44	
菊川市 水道事務所	7月	45	63	47
	8月	45	52	
	9月	45	50	

(2) モニタリングステーションの線量率（1ヶ月平均値）の推移

単位 nGy/h

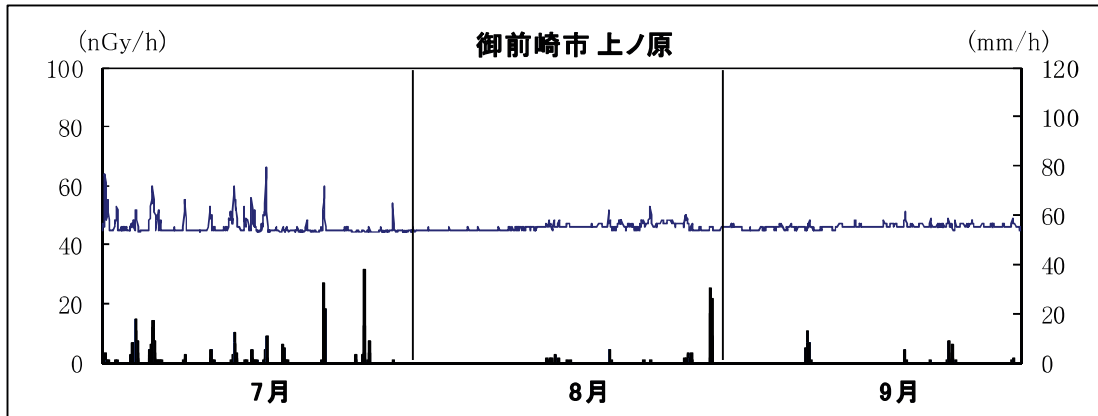
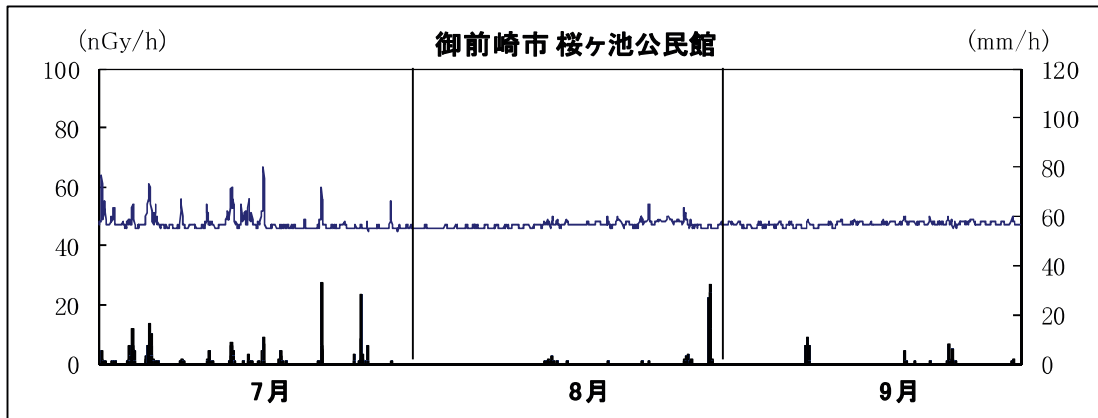
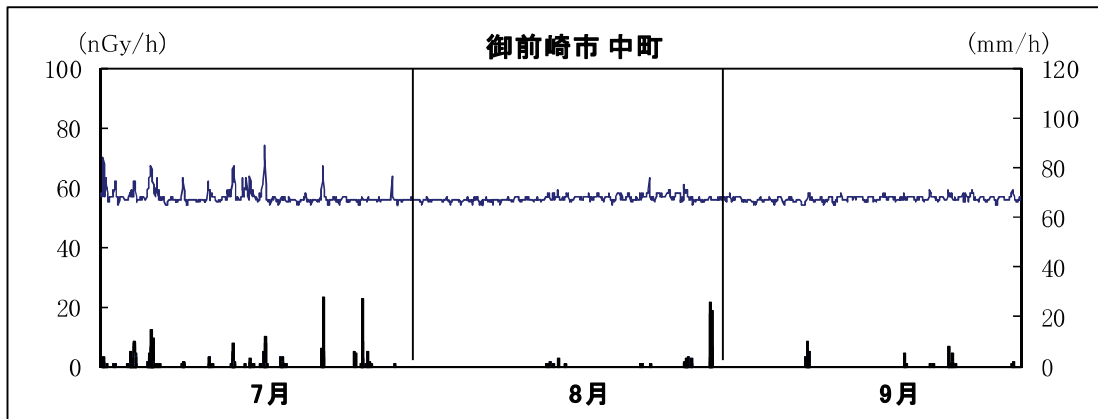
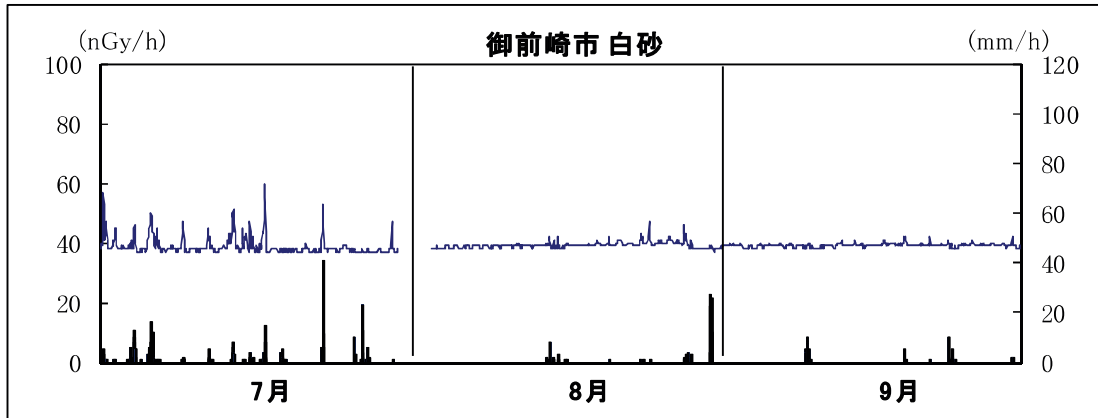


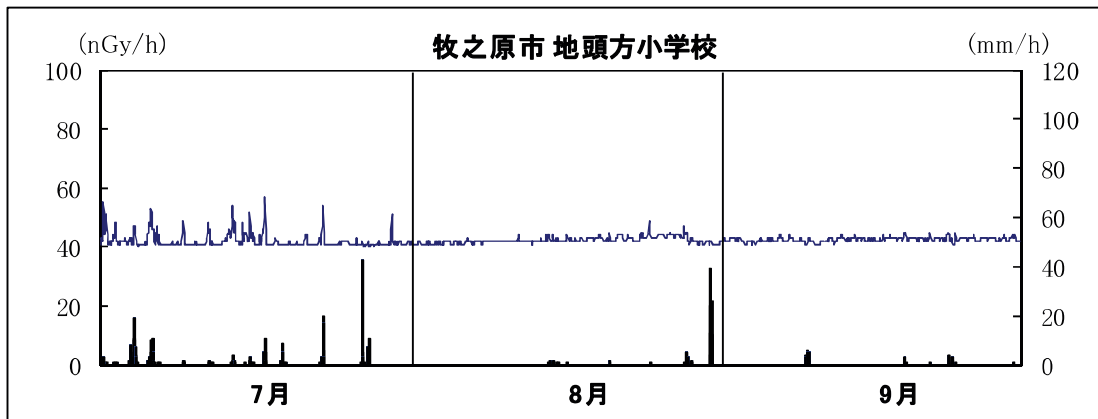
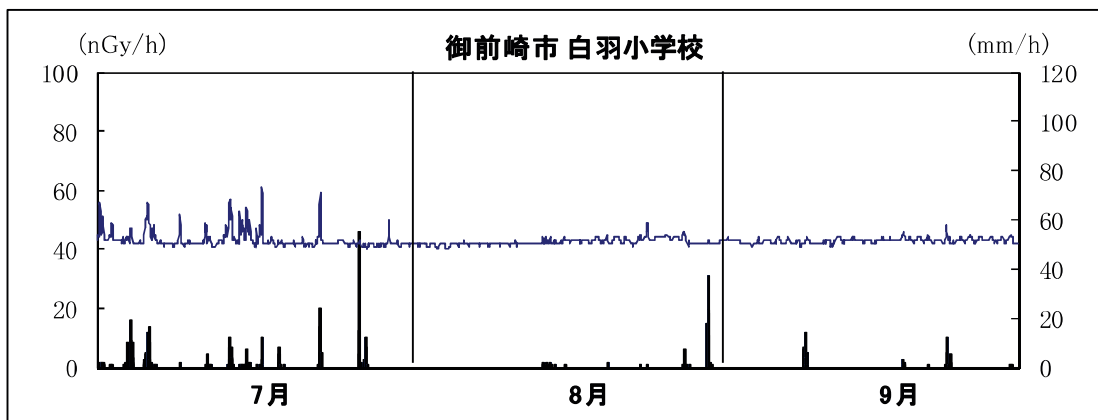
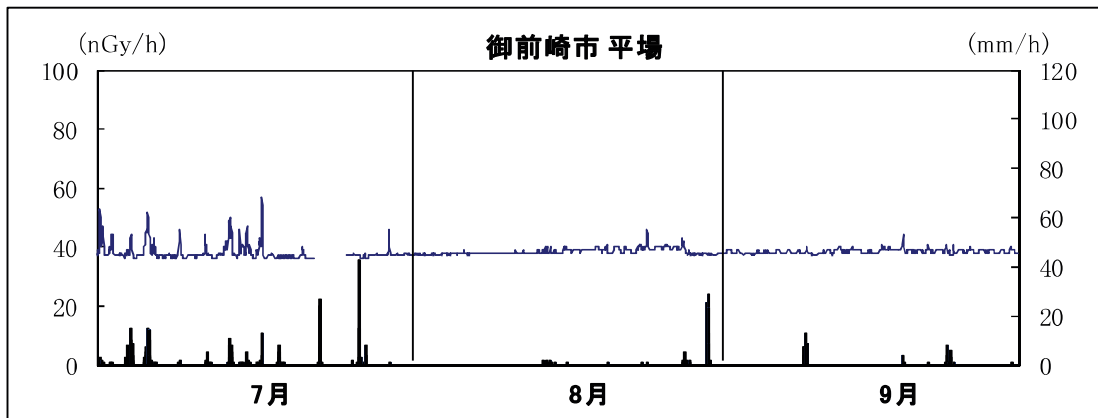
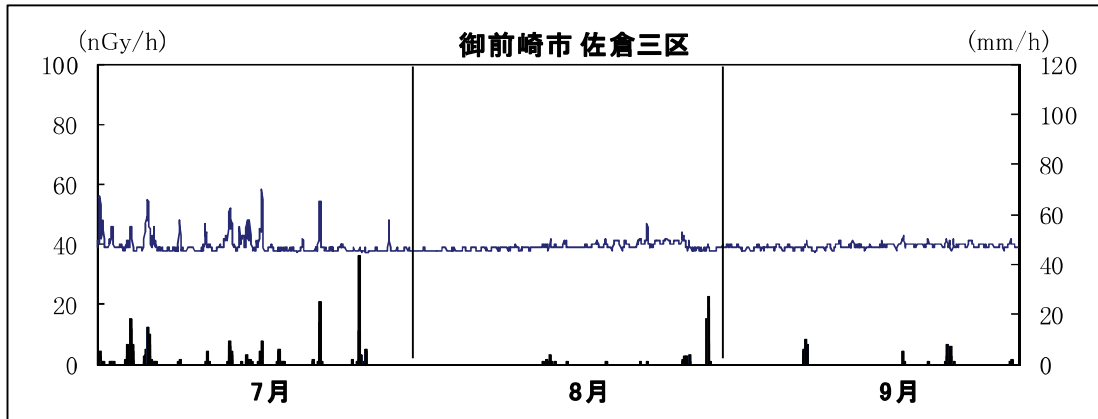
単位：nGy/h



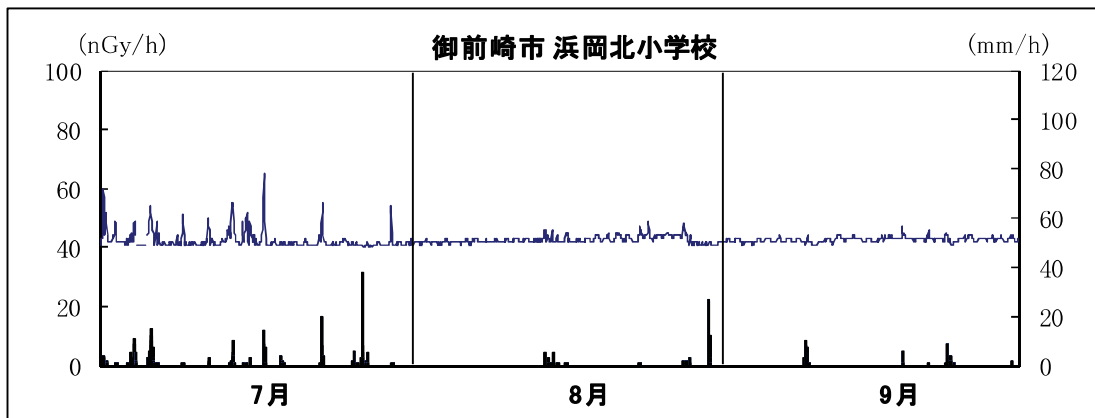
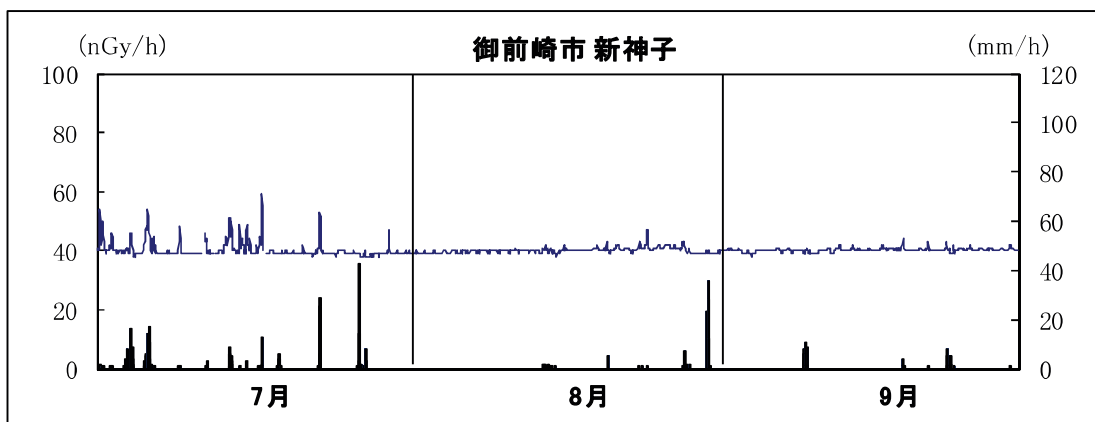
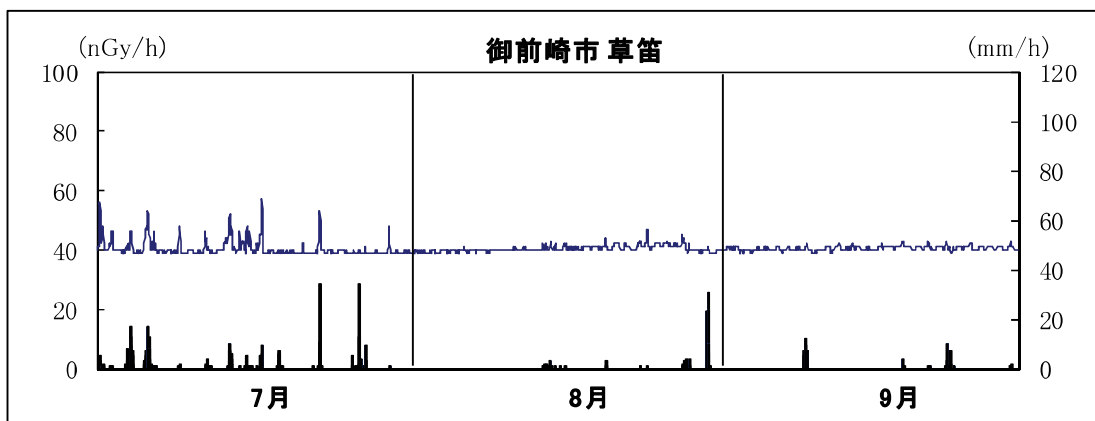
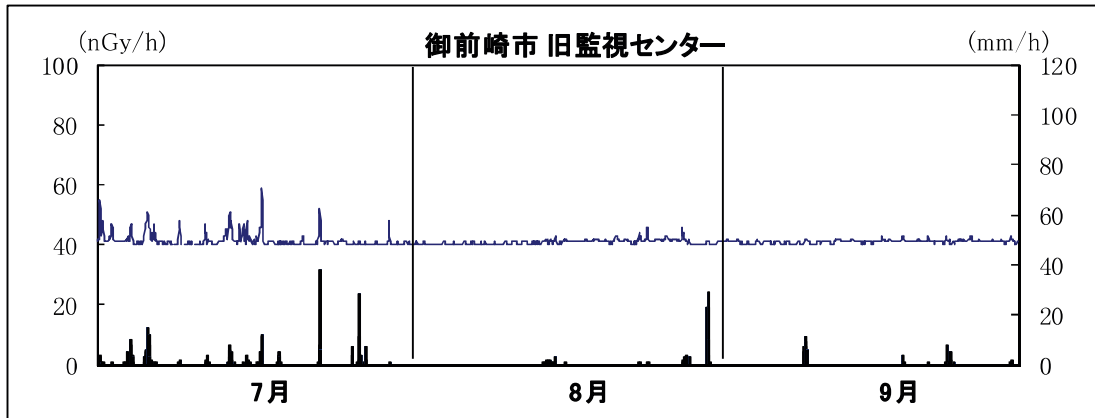
(3) 線量率と降雨量の時系列グラフ

(注) 降雨が無い場合に線量率の上昇が見られているものは特に断りのない限り「感雨」が観測されている。

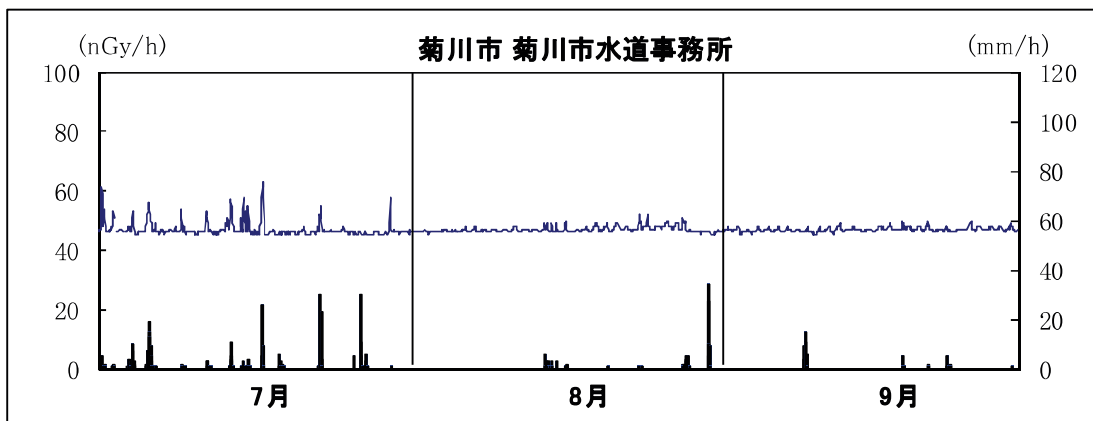
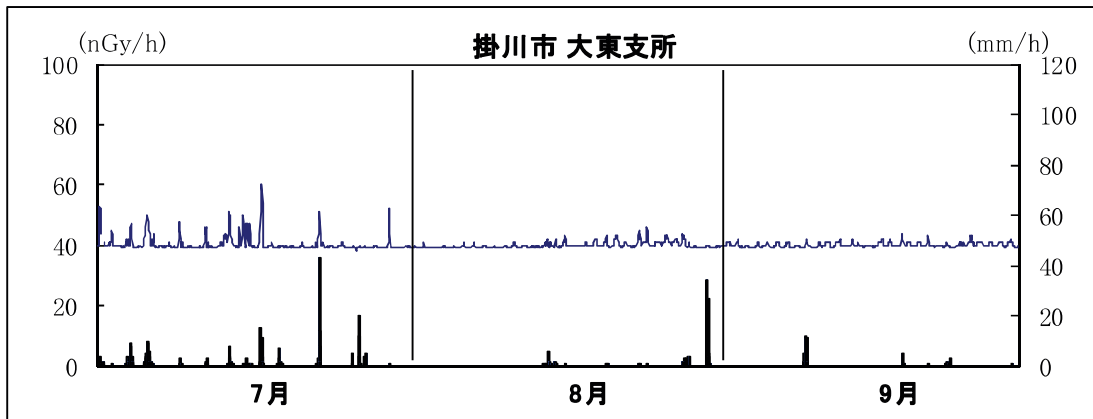




※上線は線量率, 下線は降雨量



※上線は線量率, 下線は降雨量



※上線は線量率, 下線は降雨量